

ちーむ

平成31年 2月14日 (木)

TAKANISHI

尾道市立高西中学校生徒指導部

1月は「いぬる」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われます。3学期もあつという間に、半分を過ぎようとしています。今年の冬は、昨年に比べ暖かく、雪が降ることもほとんどなく過ごしやすいようです。

3年生は1月中旬から2月始めにかけて高校入試（私立高校や公立高校の選抜Ⅰ）があり、緊張しながらも全力で取り組みました。すでに、進学する高校もきまりひと安心して生徒もいますが、最後まで気を引き締めて中学校生活を送っていきましょう。次は3月6日（水）・7日（木）に行われる公立高校の選抜Ⅱです。

1・2年生は、2月27日（水）～3月1日（金）に、最後の学年末テストがあります。今から、計画を立てて少しずつ取り組んでいきましょう。

バスと赤ちゃん

1年生の道徳で「バスと赤ちゃん」という話を扱いました。次のような内容です。ある冬の日、満員のバスの中、若いお母さんが赤ちゃんを抱いて立っていました。車内はあつくなり、赤ちゃんは大きな声で泣き始めました。お母さんがいくらあやしても泣き止みません。申し訳なく思ったお母さんは、次のバス停で降りることにしました。

降りようとしているお母さんに、運転手は「ここで降りるのですか」「乗っておいください」と言い、次のようなアナウンスをしました。「この若いお母さんは、新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いてみなさんに迷惑がかかるのでここで降りると言っています。子どもは小さいときは泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞみなさん、少しの間赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せていってください」バスの乗客はみんな拍手をし、あたたかい空気に包まれました。

お母さんの乗客への『思いやり』、運転手のお母さんへの『思いやり』、乗客のお母さんへの『思いやり』。そして、運転手への感謝の気持ち。優しさが優しさを生みました。

この話が平成24年のある番組で取り上げられました。この番組では、さらにアメリカで起こった「バスと赤ちゃん」（1つの出来事）の話が紹介されました。

同じように泣き止まない赤ちゃんのお母さんに、運転手は降りるように言い、お

母さんと赤ちゃんは降りることになりました。「ひどいことをする運転手だ」と思った一人の乗客が降りると、次から次へと全員の乗客がバスから降りました。『無言の抗議』です。アメリカの人達の『行動力』『団結力』が話題になっていました。みなさんはどう思いますか。

でもこの話が、「運転手はひどいやつだ」で終わってしまったら残念です。運転手は多くの乗客のことを思って言ったのかもしれませんが。お母さんに対してていねいに「申し訳ないが降りていただけませんか」と頼んだのかしれません。見方を変えて、相手の立場に立って、いろいろな方向から考えることも大切です。間違っただけの行為に対して、相手を責めることもあります。しかし、相手の気持ちを理解する。許す『寛大さ』も時には必要です。

【生徒の感想より】

- 他人を気遣って降りようとしたお母さんも、それを引き留めた運転手も思いやりがあって、自分も見習いたいと思った。
- 私は1つの思いやりから次の思いやり、その次の思いやりにつながって、暖かい空気になることがすごいと思いました。また、普段の生活で一見ひどいと思っても見方を変えてみて、相手の気持ちを考えて行動したいと思いました。
- お母さんが降りるといった時に運転手が「ひきとめる」という行動をとったことがすごいと思った。アメリカの乗客の人も、自分たちも黙って降りるんじゃなくて、「ひきとめる」という行動をとれば、もっとバスの中がよい空気になったと思いました。
- アメリカの運転手が「降りろ」と言ったのはひどいと思うが、ある面すごいと思う。本当は言いにくいはずなのに。
- 考え方や見方を変えると、相手・自分とともに立場が分かるし、日常にある答えは1つとは限らない。他の人が理解できるように、思いやりの心を持ちたい。
- 私は普段の生活で友達への思いやりは気をつけています。私は電車に乗って恥ずかしいけれど、おじいさんやおばあさんに席をゆずったりすることもあります。そういう場面をもっと増やして、暖かい空気になるようにしたいです。学校では、トイレのスリッパを揃えるなど、当たり前なことを当たり前にしていきたいと思いました。

通信を見られて、意見や感想をお寄せ下さい。

()年()組()番()

No. 12